

令和7年度

【第45回 全国クラブハンドボール選手権大会・西地区大会（開催地：福岡県）】

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和7年度（公財）日本ハンドボール協会競技規則によって行う。

なお、2025年競技規則変更（2025年7月1日 IHF 施行）について、今大会では、ルール適応の部分で、下記のみを変更して行う。

変更前：失格と判定すべき著しくスポーツマンシップに反する行為として記載

変更後：即座に2分間退場を判定すべきスポーツマンシップに反する行為について

競技規則8条の8(d)

・7mスローの際の、GKの頭部へのシュート直撃

競技規則8条の8(e)

・終了合図後のフリースローの際の、DFプレイヤーの頭部へのシュート直撃

2 競技会場

(1) 競技会場・コートの広さは、以下のとおりとする。

○男子会場……福岡市総合体育館 メインアリーナ（40m×20m）2面

○女子会場……福岡県立スポーツ科学情報センター メインアリーナ（36m×20m）2面

(2) 別紙「会場使用上の注意」等を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、チーム役員4名以内・選手16名以内の合計20名以内とする。

4 競技方法

九州・中国・四国の各ブロックからの代表チームによる予選リーグ・順位トーナメント方式とする。

（不参加が生じるブロックの代表枠については、開催ブロックから補充する。）

5 参加資格

参加資格は、実施要項「8(1)、(2)」のとおりとする。

臨時トレーナーについては、別に定める。※競技上の注意「17」参照

6 競技日程・時間

(1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。

(2) 競技時間は、「前半25分－休憩10分－後半25分」とする。

○予選リーグで同点の場合は、「引き分け」とする。

○予選リーグの勝点は、「勝ち2点、引き分け1点、負け0点」とする。

(3) リーグ戦の順位決定法は、以下の通りとする。

①勝ち点が多い方が上位とする。

②勝ち点が同点の場合は、該当チーム対戦間の勝利チームが上位とする。

③②で決まらない場合は、該当チーム対戦間の総得失点差の多いチームが上位とする。

④③で決まらない場合は、該当チーム対戦間の総得点が多いチームが上位とする。

⑤④で決まらない場合は、全試合の総得失点差の多いチームが上位とする。

⑥⑤で決まらない場合は、全試合の総得点の多いチームが上位とする。

⑦⑥で決まらない場合は、抽選とする。

(4) 順位決定法は、以下の通りとする。

○順位決定戦で同点の場合は、延長戦を行わず、7mスローコンテスト(5名)を行う。

【トス～7mスローコンテスト(5名)】

○決勝トーナメント(準決勝)・3位決定戦で同点の場合は、下記の通りに延長戦を行う。

【トス～第1延長(前半 5 分ー休憩 1 分ー後半 5 分)～7mスローコンテスト(5名)】

○決勝で同点の場合は、下記の通りに正規の延長戦を行う。

【トス～第1延長～第2延長～7mスローコンテスト(5名)】

(5) 競技時間は、加算式の電光表示板を使用し表示する。(卓上電光表示板を使用する。)

(6) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザーまたはホーン、笛で行う。

(7) 退場者の取り扱いは次のとおりとする。

①退場者の番号と入場時間は、「記録席上に用紙で表示」する。

②入場の判断はチームの責任である。記録席から合図することではなく、問いかけられても回答しない。

7 大会使用球(※新球を使用する。)

(公財)日本ハンドボール協会検定球

男子3号球(モルテン社 H3A5000-B) / 女子2号球(モルテン社 H2A5000-B)とする。

8 トス・ユニホーム

(1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。

その際、チーム役員の服装(色)及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5)、17(1)

(2) 第1試合のユニホームの確認は、試合開始30分前に記録席前で行う。

その後は、前試合のハーフタイムで行う。

(3) 確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。

調整がつかない場合は、組み合わせによるチーム番号の大きいチームが変更する。

(4) ユニホームについては、次のとおりとする。条件に満たない場合は、当て布等で覆わなければならない。

その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。

①番号の大きさ(高さ)は、胸10cm以上・背20cm以上とする。

②メーカーのロゴは、20cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。

③中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ(高さ)10cm以内とする。

④試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合は、異なる番号でも良い。

⑤チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。

⑥ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴは問わない。

(5) ゴールキーパー

①チームで同色とする。

②コートプレーヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。

登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。

(6) 服装、プレーヤーの装具

- ①プレーヤーはユニホームの下に、パワーパンツ、コンプレッション ショーツ、インナー ハーフパンツ、レギンス、長そでなどのウェアを使用できる。ユニホームの外に見える場合は、以下の規定が適用される。
- ②アンダーシャツは、ユニホーム(シャツ)の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。
- ③サイクリングパンツなどユニホーム(短パン)の下に履くものは、ユニホーム(短パン)の大部分を占めている色と同色であれば使用できる。ただし、黒色は例外として、ユニホーム(短パン)の色とは関係なく使用できる。
- ※ 例) チームのユニホーム(短パン)が白色の場合、白のサイクリングパンツをはいているプレーヤーと黒色のサイクリングパンツをはいているプレーヤーが混在していても差し支えない。
- ④アンダーシャツの色は、チームで統一された色でなければならない。
- ⑤すべてのプレーヤーは、靴下を履き、その色はチームで統一された色でなければならない。
- ⑥膝下の装具(例:ふくらはぎへのコンプレッションスリーブ、足首の装具など)は、靴下と同色であること。(国内では、足首の装具については、靴下と同色でなくてもよい)
- ⑦肘や膝の装具(1か所のみを保護する装具)の色は問わない。
- ⑧眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。ただし、金属製のフレーム等については使用できない。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 所定の申込を完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することできる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名、チーム役員3名以内、選手16名以内の合計20名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、7月4日(金)までに変更申請が完了したことで決定する。変更申請が完了した内容については、7月1日(火)リモート代表者会議で現状を報告し、7月5日(土)の大会当日に各会場でのチーム受付時に一覧表を配付する。
- (4) 登録証の取り扱いについては次のとおりとする。
 - ①トスの際には、テクニカルオフィシャル(以下:TO)に登録証を提出する。提出不可、または不備(写真添付なし等)があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
 - ②審判員が試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。試合中は、TOが登録証を管理し、試合終了後に両チーム代表者に返却される。
 - ③失格のチーム役員・選手、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、試合後に返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、チーム責任者は「A」を着用する。また、試合終了後に返却すること。

10 公式記録用紙

- (1) 記録用紙に、ランニングスコアは記載しない。
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任持って確認し、サインをする。公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

- 11 交代地域 ※交代地域:「3.5mラインを始点とし、それぞれのアウターゴールラインから8mの位置を終点する。場所に余裕があるときはベンチの真後ろも含まれる。」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い容器を使用し、コップの使用を禁止する。
- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。トスの際にユニホームの色が確定した後に、役員の服装の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトは、1試合で3回請求することができ、前後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、試合の後半残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならない、躊躇することは許されない。ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかなければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TOが直接受け取ってよい。

13 休憩時間(ハーフタイム)

- (1) 休憩時間のコート使用は、次試合のチームが練習のため使用する。
- (2) ハーフタイムは 10分間(減算式)、次試合のチームのコート使用は9分間とする。
タイマーは10分間でセットし、9分を経過した時点で、ブザーにより通知する。
ブザーの合図後は、速やかにコートから撤収すること。
残りの1分間で後半に向けたコート整備の時間とし、準備が整い次第、後半の競技再開とする。

14 テクニカルオフィシャル(TO)、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にTOを配置する。配置は2名を原則とし、マッチオフィシャル(MO)兼務タイムキーパーを担当するテクニカルデレゲート(TD)、及びスコアキーパーを担当するTDで対応する。
- (2) テクニカルオフィシャル(MO・TD)は、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (3) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長・副審判等とする。
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 負傷者カード

- (1) コート上で治療を受けたプレーヤーは、速やかにコートから出なければならない。
その後、そのプレーヤーは自チームが3回の攻撃を終了するまでコートに戻ることはできない。これを表示するために、負傷者カードを記録席に表示する。

3回の攻撃が終了し、コートへ戻ることが可能になったら、このカードを取り除く。

- (2) 延長戦を含めて前半・後半が終了したら、3回の攻撃回数が終了していなくても、次の開始時点からコートに入場できる。

16 次の試合のチーム役員・選手のフロアへの入場

次試合のチーム役員・選手は、前試合が終了後に両チームの挨拶が終了するまで、フロアへの入場を禁止する。競技中に次試合の役員・選手が、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。

17 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。トスの際には、必ずTOに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
- (3) TOが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。

18 表彰

競技2日目の女子および男子の決勝終了後に優勝・準優勝・3位・4位の表彰を行う。

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 観客席

今大会は、スポーツ競技活動を通じた社会活動の一場面である。各チームの役員は、「競技上の注意」「会場使用上の注意」などを選手および応援者たちに徹底させる。